

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

日本社会の生きづらさの源は、全員に **1** な「正解とされる生き方」を押しつける同調圧力にあると思います。人それぞれ、自分が楽しいと思える人生を自由に選べるようになるには、「幸せな生き方にはさまざまなパターンがあり、ひとつの生き方を全員に押しつける必要はない」と理解することが必要です。

そしてそれを実現するには、それぞれの人が「自分はこういうふうに生きていきたい！」と、自分の希望⇨自分の意見を明確にしなければなりません。

西欧社会では、子供が小さな頃から **2** 「自分の意見を明確にする」練習をさせます。幼稚園ではお気に入りのおもちゃをひとつ選ばせ「なぜこのおもちゃが一番好きなの？」と、自分の意見を説明させたりするので。

「一番好きなおもちゃがどれか」という問題には正解がありません。だからすべての子供に意見が言えます。どの意見も「異なる」けれど、どれかひとつが正解なわけではありません。

こうした訓練を積み重ね、小さな頃から「他者と違う意見を表明することは、**3** 怖いことではなく、あたりまえのことなのだ」と理解していくのです。

さらには「自分が好きなものでも、他の人には特におもしろくないものもある」とか「他の人がすぐくおもしろいと思うものでも、自分にはおもしろくないものもある」といったことも学んでいきます。これこそ多様性への理解です。

「多様性のある社会」の実現には、全員が他人の目を気にせず、他の人と同じ意見かどうかなど気にせず、自分の意見を言えることが不可欠です。そして、人の数だけ存在する意見を認め合うのが「多様性のある社会」なのです。

「私はこのおもちゃが一番好き！」「俺は絶対コレ！」と、嬉しそうに意見を表明している子供がいるなか、「どのおもちゃが一番好きか、わからない」という子供がいたら、どんなふうに見えるでしょう？ なんだか「自我のない子供」「自信のない子供」に見えないでしょうか？

4 日本では「意見より先に知識」を身につけさせようとしています。でも、いくら知識を増やしても、どのおもちゃが好きかという「正解のない問題」の答えは見つかりません。そして、人生において重要な問題はそのほとんどが「正解のない問

題」なのです。

大切なのは「正解のある問題における正解を覚えること」ではなく、「正解のない問題について、自分の意見を明確に言える子供に育てる」ことであり、「⁵自分はこのおもちゃが好きだと思っけど、ママ、それでいい？」といった、答え合わせを必要としない、自分の意見に自信をもてる子供を増やすことなのです。

「全員が自分の意見をもつ社会」、そして「それを堂々と口にする社会」を、日本人の多くは経験したことはありません。だからすぐに「⁶そんな社会はギスギスして住みにくいのでは？」などと不安がります。

でもそんなことはありません。「私はこのおもちゃが好き！」「俺はこっちのほうが絶対におもしろいと思う！」という子供らがいたとして、みながそれぞれ違っのおもちゃを「一番だ！」と断言したら、ギスギスするでしょうか？

ギスギスなんてしませんよね。むしろ「へー、ねえねえ、なんでそのおもちゃがそんなに好きなの？」といった他者への関心や対話が生まれ、多様な他者にたいする理解が進むはずですよ。

ギスギスするとしたら、「意見は多様」ということを理解せず「どのおもちゃが一番か、という問題には正解がある。したがって、おまえの選択は間違いである！」と言いだす人がいる場合ですよ。

(7)、「意見には正しい意見と間違った意見がある」と勘違かんちがいしているから、「誰の意見が一番正しいか」を巡めぐってギスギスした相互否定そうごが起こっってしまうのです。

「いろいろな意見がありえる。正解なんて存在しない」とわかっていれば、自分の意見を明確にする際に、他者の意見を否定する必要はまったくありません。相手を説得したり、相手の間違まちがい(?)を正す必要もないのです。

ちなみに、どのおもちゃが一番好きかと問えば「これが絶対一番！」と断言できていた子供でも、大人になると「絶対にコレだ！」と断言できなくなる人がいます。それは、「⁸絶対」などという言葉を使ったら、反論されるかもと怖くなるからです。

そもそも意見を表明するとき「絶対」という言葉を添そえるのは、「自分は、これが自分の意見であるということに絶対の自信をもっている」という意味に過ぎません。

「このおもちゃが絶対に一番おもしろい！」という言葉は、他にもおもしろいおもちゃがあるという事実を否定しているわけではなく、「自分」が「絶対」に「このおもちゃが一番だ」と思っう」と言っっているだけです。つまり、自分の意見にはブレがない、という意味での「絶対」なのです。

私もよく「絶対こう思う」という言い方をしますが、それは「自分の意見は絶対に正しい唯一ゆいいっの正解だ！」と言っているわけではありません。単に「私はしっかりと考え尽くした。したがって、自分の意見がこういう意見であることに絶対にブレはない！」と言いたいだけです。

(9)、自分の意見を断言できるレベルまで考え尽くした経験のない人は、すぐに「絶対などありえない」などと言いだします。

こういう人はおそらく「絶対にこれこそが自分の意見だ！」と確信がもてるまで、なにかについて考え尽くした経験がないでしょう。このため「絶対」という単語を聞いたとき、「100%正しく例外がない」という解釈しか思いつかないのです。

さまざまな方向から 10 に考えたうえで自分の意見を明確化できれば、人は「たとえ他の人の意見とは違っていても、オレの意見は絶対にコレだ！」と言えるようになります。

そして、人生の多くの重要な決断については、¹¹ 「絶対にこの道だ！」と思えるレベルまで考え尽くすことが不可欠なものです。そうでないと、少し反対されただけで「やっぱりやめたほうがいいのか？」などと気持ちがブレてしまいます。そして ¹² 世間がいうところの「よしとされている人生」を歩むことになってしまうのです。

もしあなたが自分の意見を「絶対にこうだ！」と思いつめないとしたら、それはまだ考える量が足りていない、ということ。しっかりと、誰に違うと言われても、「絶対にこうだ！」と言えるレベルまで考え尽くしましょう。

ここで大切になるのが、とにかく「自分はこれが好き！」と思える分野や生き方をきちんと選ぶことです。なぜなら人は、自分が大好きなことならトコトン考え尽くせるからです。

反対に言えば、考えるのが面倒になるようなことは、たいして好きでもないことなのです。たいして興味がないから、考え続ける意欲が続かないでしょう。

自分が心から好きだ、心地よい、楽しいと思える生き方や分野を選び、その道を選んだ理由についてはしっかりと考え尽くす。そうすれば、誰に反対されようと、もしくは、そういう道を選んだ人が極めて少なくても、「自分は絶対にこういう人生を送りたかったんだ！」と断言できます。

そんなふうに見える人生を選べたら、本当に幸せですよ。

《ちきりん『自分の意見で生きていこう』——「正解のない問題」に答えを出せる4つのステップ——より》

問 一 1・10に入る語の組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、1	強制的	10	能動的
イ、1	画一的	10	徹底的
ウ、1	排他的 <small>はいた</small>	10	多面的
エ、1	平均的	10	絶対的

問 二 — 2 『自分の意見を明確にする』練習』は何のためにするのですか。文中の言葉を使って三〇字以内で答えなさい。

問 三 — 3 「怖いことこわ」とありますが、どのようなことが「怖い」のですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、自分の意見に自信をもつことができず、他者の意見に流されてしまうこと。
- イ、自分が正解だと思って表明した意見が間違っていて、それを指摘されること。
- ウ、自分の意見押し通すために、無理に他者を説得したり否定したりすること。
- エ、自分の意見を強い言葉で断言したものの、それを相手から否定されてしまうこと。

問 四 — 4 「日本では『意見より先に知識』を身につけさせようとしています」とありますが、それはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、日本では「正解とされる生き方」がある程度定まっており、その実現のためには意見などよりも知識の有無が重要になるから。

イ、日本では意見を表明できず、自我のない子供が数多くおり、知識を身につけることによってその短所を補おうとしているから。

ウ、日本では他者と意見を合わせなければならないという意識が強く、多様性の理解よりも問題の正解を導くことを優先するから。

エ、日本では意見にも正しいものと間違ったものがあり、正しい意見を述べるには知識が不可欠だと思い込んでいる人が多いから。

問 五 — 5 「自分はこのおもちゃが好きだと思うけど、ママ、それでいい？」とありますが、このような発言をするのはどのような子供ですか。「く子供。」に続くように文中の言葉を使って、三〇字以内で答えなさい。

問 六 — 6 「そんな社会はギスギスして住みにくいのでは？」とありますが、日本人がこうした不安を感じるのにはなぜだと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、それぞれが意見をもつことを否定し、正しいとされる意見に誰もが同調することを絶対としているから。

イ、それぞれが意見をもつ社会を理解できず、他人がもつ意見への関心や対話を求めることは許されないから。

ウ、それぞれが意見をもつことに慣れないため、間違った意見を持つ人に正解を理解させようとしてしまうから。

エ、それぞれが意見をもつ社会の経験がなく、意見には正しいものと間違ったものがあると勘違いしているから。

問七 () 7・9に入る言葉としてふさわしいものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度は使いません。

ア、つまり イ、そして ウ、ところが エ、なぜなら

問八 — 8 「絶対」とありますが、この語は文中で二種類の意味で使われています。その二つの意味をそれぞれ文中から一五字以内で抜き出して答えなさい。

問九 — 11 『絶対にこの道だ!』と思えるレベルまで考え尽くす」ためにはどのようなことが必要ですか。文中の言葉を使って、三〇字以内で答えなさい。

問一〇 — 12 「世間がいうところの『よしとされている人生』を歩む」とはどういうことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分にとって心地よく、楽しいと思える生き方についてしっかりと考え尽くすこと。
イ、多くの人がイメージしている幸せな人生を正解とし、異議を唱えずに暮らしていくこと。
ウ、人それぞれに多様な意見を言い合って、お互いの意見を理解して自分の生き方に影響させること。
エ、自分の好きなことはほどほどにして、他人の意見に同調しながら自分を押し殺して生きていくこと。

問一一 筆者が言う「幸せな生き方」について述べたものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、人それぞれが自分の意見を明確にしながらも、他人の意見を否定することなく、自分が送りたいと思う人生を、他人の意見を気にせずを選ぶのが幸せな生き方である。

イ、人それぞれが自分の意見を明確にしながら、他人の意見には一切耳を傾けずに、自分が好む楽しい人生を、他人の目を気にすることなく自由に生きることが幸せな生き方である。

ウ、人それぞれが自分の意見を明確にし、他人の意見は参考として理解しながらも、自分がよいと思う人生を他人にも大いに勧めて、多くの人と一緒に幸せな生き方を送るようにするべきである。

エ、人それぞれが自分の意見を明確にし、常に他人の意見への理解を深め、それが世間でよいとされる生き方ならば、自分の意見をおさえてその生き方を試してみることが幸せにつながる。